

細江カトリック教会だより



秋号

〒750-0016 下関市細江町 1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura>

ミサ

いつもミサが行われていた教会の姿が囲いで覆われ、平日のミサと主日のミサが仮聖堂として信徒会館



のホールに移りもう二ヶ月経ちました。仮聖堂でのミサに参加することに慣れましたでしょうか。階段に登る必要がなくなり、これは非常に良いかもしれませんが、仮聖堂が狭いため、典礼に呼応して立ち座りをする 것도、ご聖体を拝領することも大変でしょう。にもかかわらず、皆さんは誠実に主日のミサに来られています。神様の働きがなければ、きっとこのような出来事はないと思います。また11月になって解体そして建設工事が始まり、しばらく駐車ができなくなって、もっと不便になるかもしれません。お互いに支え合いながら、私たちが愛してくださっている神様を賛美する共同体ができるように祈り続けましょう。

ミサが行われる場所が変わっても、ミサ自体がまったく変わらないことは言うまでもありません、この機会を借りて、ミサに関するカテキズム的、また神学的なことを皆さんに分ち合いたいと思います。

最後の晩餐において、イエスはパンをとり、「これはあなたがたのために渡される私のからだである」と言い、またぶどう酒が入った杯を取り、「これはわたしの血の杯、あなたがたのために流される新しい永遠の契約の血である」と言って、「これを私の記念として行いなさい」と弟子たちに命じました。

イエスのこの言葉こそが「なぜカトリック教会が今日また世の終わりまでミサを行っているのでしょうか」という問いかけに対する答えです。つまり、教会が信者を引っ張るために、ミサを造るのではなく、「これを私の記念として行いなさい」というイエスの命令に従って行い続けるということです。そして、イエスが言われた通り、ミサを行うことがただ人間的儀式を行うことだけではなく、しかも、目に見えるその儀式を通してミサに参加する人々に、またその人々を通してすべての人々に救いをもたらすことです。だからこそ、教会がミサの儀式という形で行い続けています。

それから、ミサを行う時に、イエスが言われた通り、教会は人間の救いのためにこの地上に受肉されたナザレのイエスが十字架上で死んで復活した、という出来事を記念しています。イエスの出来事を記念すると言いますと、二千年以上前という歴史の流れの中にあつた出来事を考えさせられます。確かに、そういう意味合いがありますが、実はイエスの出来事を記念することは、ただ歴史的な出来事として思い出し記念するだけではなく、むしろ二千年以上前に起こった出来事を、秘跡的に再現するのです。もっと正しく言えば、ミサを行うたびに、二千年前に起きた出来事が今同じように起きているということです。要するに、二千年以上前に人間のために、十字架にかけられたイエスが今も同じように私たちのために、十字架にかかり苦しんでいるということです。考えてみますと、これは本当に驚くべきことではないのでしょうか。目に見えないのですが、ミサを行う度に苦しいイエスの姿が現れています。それは私たち一人ひとりの罪の為です。

そのために、キリスト信者が共に集い、神に賛美と感謝を捧げ、ミサを祝う典礼は『典礼憲章』によりますと、「教会の活動が目指す頂点であり、同時に教会のあらゆる力が流れ出る泉である」。教会を建て替えるという今こそ、私たち一人ひとりが熱心に神に祈り、ミサを通して「霊的な教会」いわゆる「信徒との繋がりを強く築き、それからミサを通して人々に救いをもたらす「パイプ」となるように祈りたいと思います。

グェン・ヴァン・トアン 神父

- 1992年～ ミゲル・ラフォンテ
- 1995年～ 住田省悟
- 1997年～ 恩地誠
- 2000年～ ミゲル・ラフォンテ
- 2001年～ アレキサンダー・ヴァリカマカル
- 2006年～ 小崎次郎
- 2009年～ 李相源
- 2011年～ 百瀬文晃
- 2018年～ 作道宗三

◇ 1956年(昭和31年)7月22日 ◇
聖堂 荻原地区長より祝別

細江教会聖堂の思い出 Ⅲ



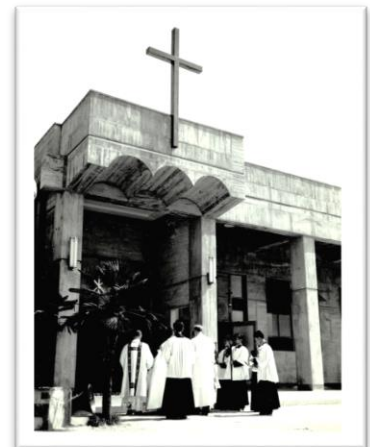
7月30日(日)にお別れ会がおこなわれましたが、スライドの編集をしてくださったカスタニエーダ靖代さんのご協力をいただきながら、改めてスライド映像の写真をもとに少し振り返ってみたいと思います。

◇下関細江教会歴代主任司祭◇

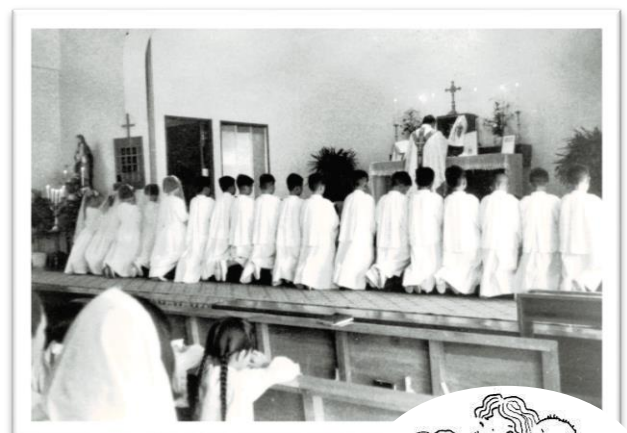
1895年～ 1944年(省略)



- 1944年～ 中山助人
- 1962年～ ゲルハルト・トーラ
- 1967年～ ヴィンセント・バルバ
- 1970年～ トマス・リントホルスト
- 1980年～ ホセ・モラレス
- 1983年～ ホセ・パラシオス



* 教会祝別式
1956.7.22



* 中山神父司式初聖体





* 結婚ミサ・・・聖堂がホールの時代



* 1977.6.12 リントホルスト神父と初聖体の子ども



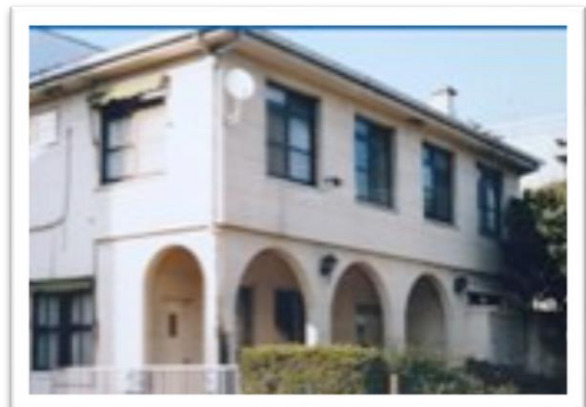
* 幼稚園と細江教会、右に司祭館



* 堅信式 1978 年



* トーラ神父と共に



* 旧司祭館



* 1962 年 中山神父と日曜学校子ども達



* ステンドグラスとタイル、Sr, フランシスカの指導と共に。

◇ 思い出をひとつ ◇

ついに教会の解体が始まりました。

2010年4月から細江教会にお世話になって、この13年の間には、多くの方とのお別れもありました。2階の渡り廊下を、通ってこっそり聖堂に入り、葬儀ミサに与ることもありました。出棺の時、大住さんが、鐘を鳴らします。あの重みのある鐘の音が、思い出されます。あの鐘を作った西田氏が、共に青春を、過ごした長崎飽の浦教会の先輩だということのも理由の一つかもしれません。彼の形見になったこともメンテナンスに、とても費用がかかると聞いてましたので、新しい教会には、実用的な形式で、残して頂けるそうなので、個人的にとっても嬉しく思います。

彦島教会信徒 真浦 美千代



* 三位一体宣教女会と援助マリア修道会のシスターたち。1992年頃 祝賀会？



* 日曜学校...子ども達は今？青年に。



* 日曜学校お泊り会 1998年

聖ペトロ教会、今までありがとうございました！数々の思い出が走馬灯のように浮かびます。

新しい教会が誕生します。様々な問題がありますが、老若男女また希望に満ちて訪日した外国人たちの頼りになれる教会。それが良いたまり場になっていくと、この教会から平和な世界へと繋がり、続いていくのではと思います。

一人ひとりが信仰の証人に・・・。



* 教会の鐘が取り外されて・・・

(微かにグアダルーペの聖母、メキシコの刻印が・・・)

フェンスとベランダでは・・・

トアン神父さまが蒔いた種が見事に。



* コスモスと朝顔

* 紅く染まったコキア

来年はコキアで箒ができればいいですね。

